

第41回  
生体膜と薬物の相互作用シンポジウム  
趣意書

実行委員長 宮内 正二  
(東邦大学大学院薬学研究科)

## 趣 意 書

日本薬学会を構成する部会の中でも、物理系薬学は、物理化学、分析化学、製剤学、構造生物学、イメージング、ドラッグデリバリー、情報科学などの広範な領域に跨がった、薬学の基盤となる学際領域であります。この物理系薬学部会は、物理系薬学の教育と研究活動の向上を目指し、それにより物理系薬学領域の更なる進展と活性化に貢献することを目的としたものでございます。

本シンポジウムは、「生体膜と薬物の相互作用をキーワード」として、全国の幅広い分野の研究者が集まり研究成果を発表する学際的かつ歴史の長いシンポジウムであります。母体が物理系ではありますが、生物系、薬理系、医療系の内容まで他領域に跨がった学際的な研究発表が数多く行なわれております。

この度、令和元年10月18(金)、19日(土)に、「第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム」をわたしどもの東邦大学大学院薬学研究科にて開催することとなりました。第41回シンポジウムは、トランスポーター、受容体、チャネル、酵素に関する機能解明および、それら膜タンパク質をターゲットとした疾病の治療・創薬を目指した研究成果発表と討論を行うことを目的としており、今後の研究の発展の一助となることを期待しています。また、本シンポジウムにおいて、トランスポーターの研究分野で著名な Vadivel Ganapathy 教授(テキサス工科大学)および David E Smith 教授(ミシガン大学)を招聘し、特別講演を企画しております。更に、本シンポジウムの牽引を担ってきたトランスポーター研究領域および薬物送達の研究領域に関するミニシンポジウムも企画しております。

平成31年4月吉日

第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 実行委員長

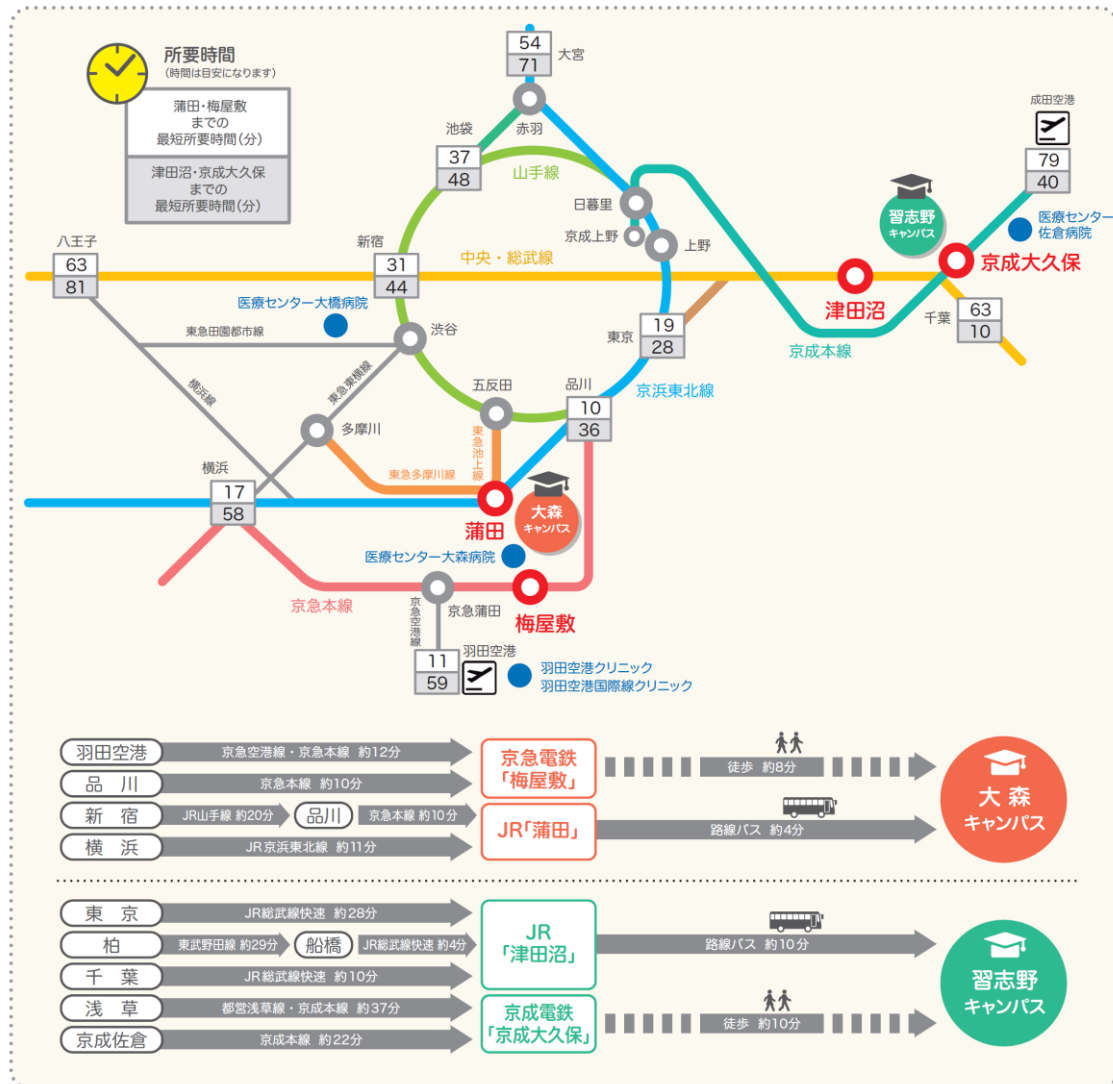
## シンポジウム概要

1. 会議の名称 第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
2. 会期 2019年10月18日(金)～19日(土)
3. 会場 東邦大学習志野キャンパス  
〒274-8510 船橋市三山2-2-1 TEL 047-472-1188
4. 参加予定人数 160名
5. 主催 日本薬学会物理系薬学部会
6. 実行委員長 宮内 正二(東邦大学大学院薬学研究科・教授)
7. 事務局 第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム事務局  
東邦大学大学院薬学研究科 薬物動態学教室(担当、佐々木 将太郎)  
〒274-8510 船橋市三山2-2-1 TEL: 047-472-1868, FAX:  
047-472-2595
8. 開催目的 生体膜と薬物との相互作用に関する最新の研究成果発表、情報交換を主な目的とする。更に創薬基盤研究への進展を討論する。
9. プログラム
  - 1) 会議の日程/会場(会場へのアクセスは次頁参照)
  - 2) 主なプログラム・特別講演 Dr Vadivel Ganapathy (Texas Tech University), Dr David Smith (University of Michigan)・ミニシンポジウム(2つのセッションとして実施、トランスポーター領域、DDS領域)(オーガナイザー1(安西 尚彦先生(千葉大学)、表 弘志先生(岡山大学)) オーガナイザー2(秋田 英万先生(千葉大学)、丸山 徹先生(熊本大学)))・一般公演(口頭発表)・ポスター発表
10. 実行委員会  
実行委員長 宮内 正二(東邦大学大学院薬学研究科・薬物動態学教室)  
実行委員: 秋田 英万(千葉大学大学院薬学研究院・薬物学研究室)  
実行委員: 安西 尚彦(千葉大学大学院医学研究院・薬理学教室)  
実行委員: 井上 勝央(東京薬科大学大学院薬学研究科・薬物動態制御学教室)  
実行委員: 田中 光(東邦大学大学院薬学研究科・薬物学教室)  
実行委員: 登美 斉俊(慶應義塾大学大学院薬学研究科・薬剤学講座)  
事務局: 佐々木 将太郎(東邦大学大学院薬学研究科・薬物動態学教室)

## 11. シンポジウム会場（C館、D館）



## 12. 東邦大学習志野キャンパスへのアクセス アクセスマップ





■JR からのアクセス

JR 総武線 津田沼駅 下車、北口 4 番・5 番バス乗り場から「三山車庫」「二宮神社」「八千代台駅」「日大実籾」行きのいずれかに乗車。  
約 10 分「東邦大学前」下車。

■京成本線からのアクセス

京成大久保駅 下車、徒歩約 10 分